

いわて平泉米だより

いよいよ、平成28年産米の作業が始まります！
万全の準備で進めましょう

★全ての米について栽培記録簿の記録を行いましょう。
★特別栽培米・限定純情米に係る申し込みの確認と薬剤の適正使用に注意しましょう。
★生産工程管理について、作業のつど記録する事に努めて下さい。

家族でまず
田植えを決めてネ



作業工程

種もみ準備

◎10a当たり乾籾種子量は3.6～4.0kg 必要です。

ポイント

- ・種籾は種子更新したものを全量必ず使用する。
- ・厚まきは病害の発生を助長するので行わない。
- ・異品種混入に注意。

※当JAから購入以外の種籾については品種を証明するものが必須です。

増水選

◎病害籾（細菌病、ばか苗、いもち病）、充実不良等を取り除くため、正しい濃度で比重選を実施すること。

＜比重選の方法＞

種別	比重	水18リットルに対し	食塩	硫安
うるち(無芒)	1.13	3.8kg	5.6kg	
もち	1.08	2.3kg	2.9kg	

ポイント

- ・食塩及び硫安は、冷水では溶けにくいのでぬるま湯を使う。
- ・比重計を使用し、比重を確認すること。

【手順】

浮いた籾は捨てる → 塩水をよく切る
→ 水洗い → 水切り → 浸種へ

浸種

◎浸種水温が低いと発芽率が低下するので、水温を確保して下さい。

◎2～3日に1回水を交換する。

12℃で 8～10日浸漬
15℃で 7～8日浸漬



- 浸種水温が低いと発芽率が低下するので、水温を確保して下さい。
- 2～3日に1回水を交換する。

ポイント

- ・水づけは水温12～15℃で7～10日、積算温度100～120℃を目安に行う。
- ・低温で長期間の浸漬では発芽率が低下し、15℃を超えてしまうと、ばか苗の種子感染が助長されるので注意する。
- ・水を交換する場合は、上下袋の位置を換えるとともに種籾を袋の中で良く攪拌する。
- ・種籾が充分水分をすってアメ色に通けるのを確認するまで浸漬を行う。
- ・浸漬容器は、昼間・朝晩の外気温の影響を受けないよう温度変化の少ない場所に設置する。また、寒い時などはシート等で覆い水温の安定を図る。